

令和3年度 事業報告書

1 概況

2021年度(令和3年度)における日本経済は、2020年度(令和2年度)に続き新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、政府および地方自治体より発令された緊急事態宣言・まん延防止等重点措置により様々な経済活動を制限されることとなり、長期に及ぶ経済停滞を招く結果となった。

上記の背景を受け、当財団においても年間を通じて感染リスク回避を理由とした予約のキャンセルや見なおし、変更による受診月の偏りがみられ、受診者の確保について非常に困難を極める年度となった。このように本事業年度についても厳しい環境下での運営となったが、当財団では受診者と職員の安全を最優先に考え感染防止対策を徹底し、同時に施設健診に重点を置き未受診者への受診勧奨活動に注力することで健診予約数の確保に努めた。

また、国内初のファイザー製新型コロナウイルスワクチン接種が2021年2月に実施されたことで、当財団においても職員への1回目の接種を各医療機関にて同年4月に早期実施した。ワクチンの接種については任意ではあったが、その後も3回目までほぼすべての職員への接種を終え、クラスターの発生防止を図ることができた。

これらの各拠点の取り組みにより、健診を見合わせていた未受診者の予約数も次第に回復し、結果的に事業収入は年間目標を超過達成し良好な事業年度となった。

2 健康診断事業・診療事業

【 東京支部（新宿健診プラザ） 】

新型コロナウイルス感染症については、2021年度も「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が断続的に適用され、依然として沈静化の気配を見せず、入口でのサーモグラフィシステムによる検温、施設内における不織布マスクの着用・手指消毒の徹底、受診者向けにホームページにコロナウイルス感染症対策の掲示等を前年同様継続した。

また、新たに施設内の抗菌・抗ウイルスコーティング施工、空気清浄機能付オゾン除菌脱臭器の各個室への配置、受診者へコロナ問診票の運用開始等を実施した。

その結果、施設内受診者数は前年比108.5%となり、事業収入の年間目標を達成することができた。

【 北関東支部（伊勢崎健診プラザ） 】

伊勢崎健診プラザは、新型コロナウイルスの感染症拡大により2020年度に発生した健診実施時期の後ろ倒しの影響を是正するため、第一四半期における健診の前倒し勧奨を強化し、施設・巡回ともに実施の平準化を推進した。

また、全ての定期健診受診者を対象とした「HbA1c」の項目を追加したことで血液検査精度および受

診単価が向上、これらの施策の効果により前年比 105%超の事業収入を達することができた。

【 栃木支部（とちぎ健診プラザ） 】

移転後 7 年目を迎えた とちぎ健診プラザ では、運営課題であった第一四半期(4~6 月度)において巡回健診・施設健診の前倒し勧奨 および 施設受診者へのオプション検査の積極的勧奨に取り組み、事業収入の平準化に注力したことが奏功し、年度予算を超過達成する結果となった。

また、移転新築プロジェクトが進行する中、男女別健診フロアーを想定し、積極的な施設 PR および新規営業活動を展開し、多くの女性受診者を取り込むとともに、女性が受診しやすい環境の整備に努めた。

なお、協会けんぽ栃木支部が注力する「とち乙女健診(被扶養者/特定健康診査)」に対しては、施設午後枠を利用した積極的な勧奨・受入を実践し、多くの女性に好評を博した。

【 東北支部（山形健康管理センター） 】

山形健康管理センターでは、定期健診の午後予約枠を増枠した施策が定着し、午前の生活習慣病予防健診・人間ドックの受診者が増加したこと、また月 3 回のレディースデイの実施等、施設評判の向上に注力したことにより、事業収入の予算超過を達成した。

【 各支部の診療事業 】

健診・人間ドック実施後の二次検査の実施、および外部専門医療機関との連携等に注力し、健診後のフォロー体制の充実化に努めた。

以上